

第10回 筑後川学識者懇談会

資料 - 6

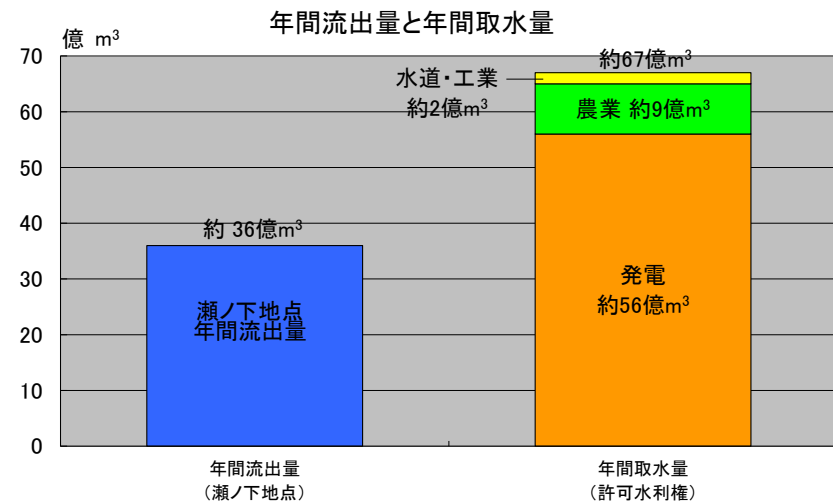
筑後川水系ダム群連携事業

(状況報告)

1. 事業の概要【流域の特性】

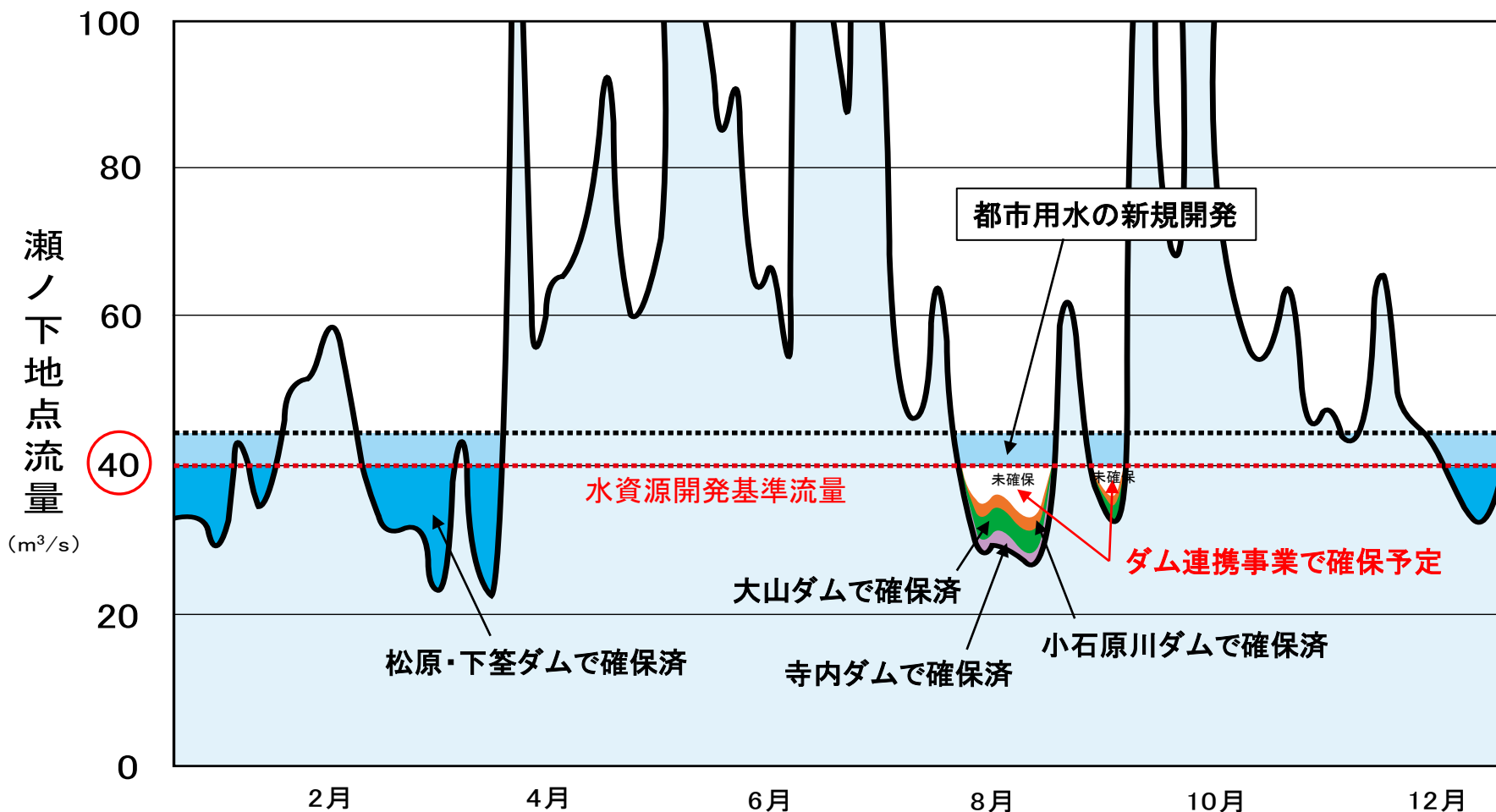
- 筑後川の水は、上流域から下流域に至るまで、発電用水や農業用水等で繰り返し利用されるとともに、福岡都市圏など広域的に供給されていることから、筑後川は、北部九州において重要な用水供給源となっている。
- 筑後川の年間取水量は、瀬ノ下地点における年間流出量以上の水利用がなされている。
- 筑後川の水資源開発については、急激に増大した水需要に対応するため、これまでに都市用水等の開発を流水の正常な機能の維持に優先してきた歴史的な経緯がある。

筑後川における水利用の状況



2. 事業の目的

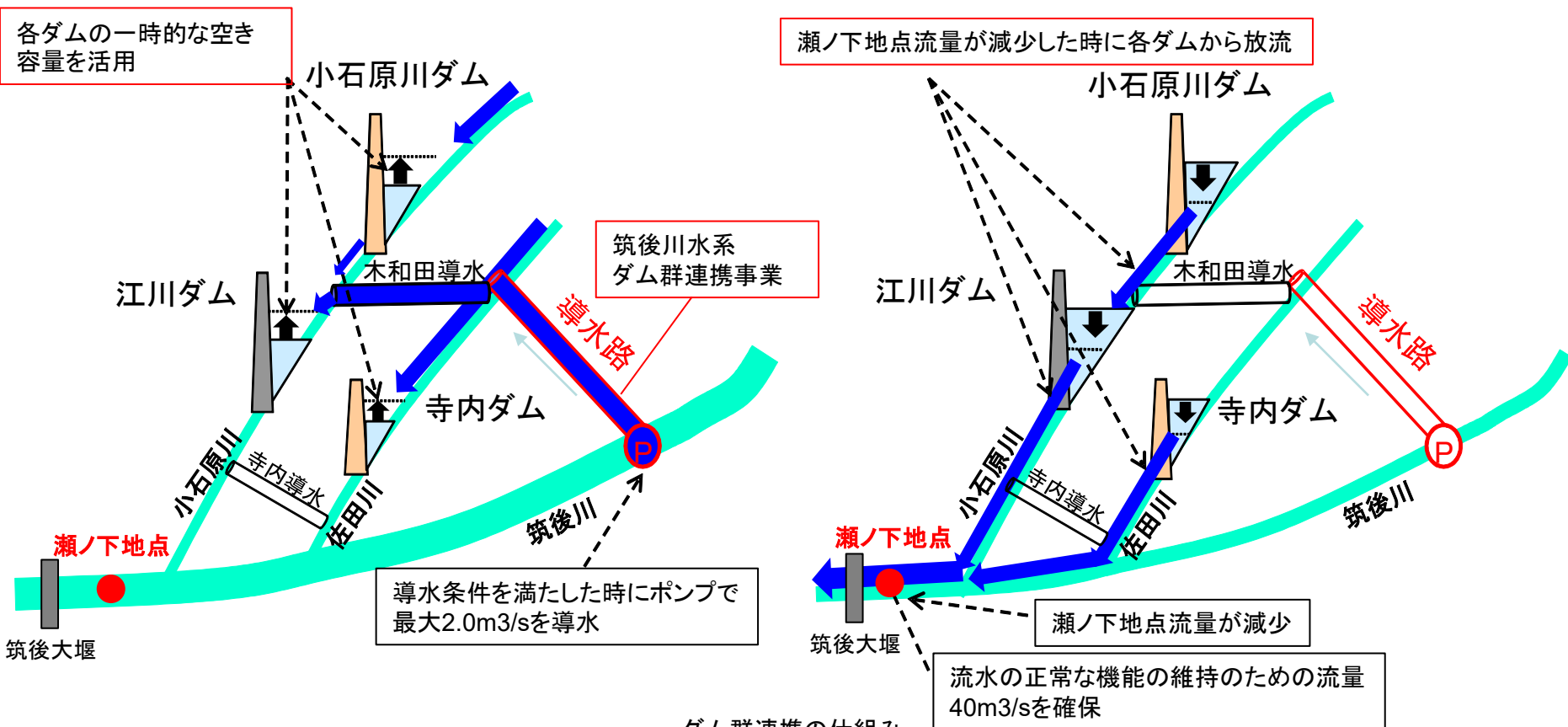
○都市用水の優先的な確保等により不足している流水の正常な機能の維持のための用水を確保し、既得用水の安定化、河川環境の保全を図る。



瀬ノ下地点の河川流量不足量への補給イメージ

3. 事業の仕組み

○筑後川水系ダム群連携事業は、筑後川本川の流量が豊富な時に佐田川の木和田地点まで最大2.0m³/sを導水し、江川ダム、寺内ダム、小石原川ダムの一時的な空き容量を活用することで、瀬ノ下地点の流水の正常な機能の維持のための流量を確保します。



ダム群連携の仕組み

4. 事業進捗状況

■ これまでの事業の進捗

平成13年4月より実施計画調査に着手し、これまでに主に以下の調査を行っている。

- ・地形調査
- ・地質調査(広域調査、ボーリング調査等)
- ・水位、流量、水質調査
- ・自然環境調査(動植物等)
- ・地下水、水利用実態調査

現時点においては、水理水文調査、環境調査、地質調査、導水ルート検討等を行っている。



水位・流量観測



沢水観測



自然環境調査